

株式会社 富士銀行

Windows NT使用の外為円決済システムで、BOMが100%の可用性をサポート。

富士銀行では新しい外為円決済システムにWindows NTサーバを採用した。外為円決済システムでは100%の可用性が要求される。システム開発・管理の責任的立場にある(株)富士総合研究所の福山主事によればWindows系のサーバはコスト的に魅力はあるが導入にはかなりの決断が必要だったという。システムの万全を期すためにさまざまな検討を加え、その結果セイ・テクノロジーのWindows 2000/Windows NTサーバ監視・リカバリーソリューションツールBOMを採用した。なぜBOMでなければならなかったのか。福山主事にインタビューした。



主事システムエンジニアリング 福山重男氏

外為円決済の 先進システムを構築

富士銀行の開発した「F-WAYS」は、日本における外為円決済(外国為替円決済)の手法を、大きく方向転換するシステムである。(各銀行が自システムで処理→他銀行へアウトソーシング)

外為円決済は、外国為替の売買や、輸出入に伴い発生する業務であるが、従来は日銀のシステム(日本銀行金融ネットワークシステム)で、1日につき1度だけ時点決済という形で他行との取引の入払金額の差額で処理していた。ところがこの方法では銀行破綻などの問題が発生した際、受け取るべき金が戻ってこない、といった根本的な問題を抱えていた。ひとたび問題が発生してしまうと、日本の外為円決済システム全体が破綻を招く恐れがあったのである。そこで登場するのが、即時グロス決済という仕組みだ。この方法であれば、1日に何度でも決済できる。必要な決済は、必要な時点で行えるから、特定の相手との取引を突然停止せざるを得なくなっても、他の決済に対する影響は避けられる。諸外国ではすでに主

流の方式である。この即時グロス決済が日本でも解禁となったことを受け、1998年12月に開発されたのが富士銀行の「F-WAYS」だ。このシステムは、同種の決済システムを持たない他行に対して、決済代行機能を提供するシステムである。富士銀行に、複数の銀行が決済を委託する即時グロス決済システムが、F-WAYSなのである。

停止することは許されない

F-WAYSのようなシステムは、「ミッションクリティカル」と呼ばれている。短時間の稼働停止も許されない、という意味だ。この高い信頼性を要求されるシステムに導入されたのは、14台のWindows NT Serverと、2台のPCワークステーションである。従来、勘定系のシステムには、当然のごとく、メインフレーム(いわゆる大型コンピュータ)が利用されてきた。このような場所でパソコンを利用することに対しては、当時、多くの疑問が投げかけられたが、現在のパソコンは非常に高い性能を持っているのも事実である。ある程度の分散処理を行えば、必要な処理能力は充分満たせるのである。さらに、信頼性という点では、ミラーリングといった基本的な安全対策をとるだけでなく、トラブルを起こさないための対策も講じられた。すなわち、サーバのハードウェアトラブルが発生する前に、問題になりそうな場所を発見。問題が顕在化する前に、原因を解決してしまうという、特別体制をとることにした。もちろん、ソフトウェアに関しても、徹底した動作テストが行われ、ソフト、ハードともに、100%の可用性が実証された。その結果、



企業概要

株式会社富士銀行

名称	株式会社 富士銀行
本店所在地	東京都千代田区大手町1丁目5-5
創業	明治13年(1880年)
頭取	山本 恵朗(やまもと よしろう)
店舗数	●国内 929 (本支店:276 出張所:30 代理店:2 無人店舗:621) ●海外 29 (支店:17 出張所:3 駐在員事務所:9)
従業員数	13,520人(2000年9月30日現在)

